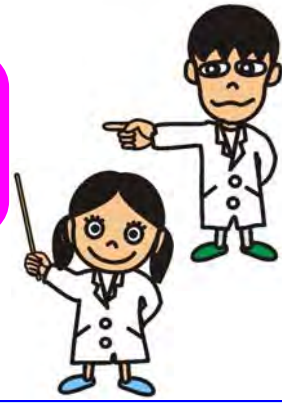






感染症に気をつけよう！





平成25年
【11月号】

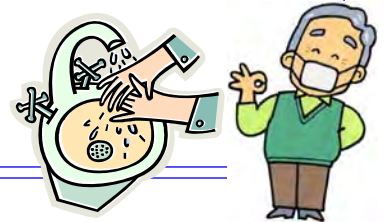
横浜市内の感染症 流行状況


感染症	流行状況		説明
腸管出血性 大腸菌感染症	 流行	 横ばい	8・9・10月と報告数が例年より多い状況が続いているので、引き続き注意が必要です。肉など食品の加熱(75℃で1分以上)・手洗いを十分に行い予防しましょう。【9月号】
RSウイルス 感染症	 やや流行	 やや増加	市全体で増える傾向です。寒い季節に流行する風邪の一つですが、乳幼児などは重症になることもあるので、注意しましょう。予防には手洗いが最も大切です。【10月号】


今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

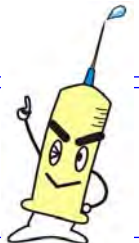
 インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感けんたいかんや関節痛などで、普通の風邪とは違います。例年、1～2月に流行のピークがあり、学校等では集団発生も起きます。特に、高齢者・小児・妊婦や、ぜん息などの持病があると、重くなりやすく注意が必要です。


 患者の咳で飛び散ったしぶきひまつ(飛沫)や鼻水には、ウイルスが含まれているので、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。飛沫で汚れた物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。



 感染を避けるためには、手洗い・うがいが大事です。患者になったら他の人にうつさないように、マスクを着けるなど飛沫が飛び散ることを防ぐ咳エチケットを守りましょう。

 抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は、学校等を休みましょう。



 ワクチンも有効で発症の可能性を減らし、発症したとしても重症化を防ぎます。効果は接種して2週間位で現れ、5ヶ月程度続きます。予防接種をお考えであれば、かかりつけ医に相談し、できるだけ早く済ませましょう。

